

4 土器編年の確立に向けて

今回は、南九州を代表する円筒土器の一つである石坂式土器の細分を行い、石坂Ⅰ式土器・石坂Ⅱ式土器の設定を行った。内容的には以前細分したものと同一のもので、新しい試みというわけではない。ただし、細分の根拠を裏付ける新しい資料・情報が増えてきていることも事実である。

鹿児島県国分市所在の上野原遺跡に代表される南九州の縄文時代初期の様相は、全国から注目される段階にきている⁴⁾。竪穴住居跡や集石遺構などのように、草創期から早期前半にかけての資料は、単に日本の南端の文化として片づけられるような情報ではなくなっているのである。

このような状況の中、南九州の縄文文化研究もさらなる進展が求められている。進展させるためには多くの課題が存在する。発掘調査組織の充実と技術の向上、調査者の資質向上、考古学を取り巻く周辺分野との連携と情報収集等があげられよう。もちろん考古学そのもののステップアップが求められていることは言うまでもない。

このような課題を少しずつでも解決するための手段の一つとして、土器編年の確立がある。どんなに多くのあるいは明瞭な遺構が発見されても、土器編年との絡みがなければより確かな時間軸の設定には至らない。土器以外の遺跡情報を、より確実なものにするためにも土器編年の確立が必要なのである。ただし、編年至上主義に陥らないことを常に念頭に置きながら作業であることを忘れてはならない。

5 おわりに

土器編年の確立という観点から、石坂式土器の細分を再確認した。しかし、このことが最終目的ではないことは前述の通りである。一方では、土器編年が示してくれる時間軸の背景にある人間の活動について、あるいは彼らが生きた社会について、広く深く追究し明らかにしていく作業が求められているのである。本稿がその作業の一端となれば幸いである。

【 註 】

- 1 アカホヤ前後の条痕文土器については、近年重留康宏がまとめている(重留 2002)。
- 2 大隅半島の中部にある標高235mの大中原遺跡では、火砕流をはじめとするアカホヤの影響の跡が確認されている(根占町教委 2000)。
- 3 石坂式土器全般の地名表・分布図については黒川忠広がまとめているので参照していただきたい(黒川 2002)。
- 4 上野原遺跡は1999(平成11)年に国史跡に指定され、2002(平成14)年には史跡公園「上野原縄文の森」が開園した。

【引用・参考文献】

- 江坂輝弥 1966 「入門講座 縄文土器 九州篇 [3]」『考古学ジャーナル』3 ニュー・サイエンス社
- 大脇直泰 1962 「九州における貝殻文土器について」『考古学研究』31 考古学研究会
- 賀川光夫 1962 「縄文文化の発展と地域性—九州東南部」『日本の考古学』Ⅱ 河出書房新社
- 鹿児島県教育委員会 1978 『東原遺跡他』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書 (10)

- 鹿児島県教育委員会 1980 『石峰遺跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書 (12)
- 1981 『加栗山遺跡ほか』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(16)
- 1992 『榎崎 A 遺跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書 (63)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 1993 『榎崎 B 遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (4)
- 加世田市教育委員会 1999 『椿ノ原遺跡 第2分冊』加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書 (17)
- 鹿屋市教育委員会 1987 『岩之上遺跡』鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書 (6)
- 1988 『打馬平原遺跡』鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書 (8)
- 河口貞徳 1955a 「南九州の条痕文土器」『石器時代』第1号 石器時代文化研究会
- 1955b 「先史時代」『鹿児島のおいたち』鹿児島市
- 1972 「塞ノ神式土器」『鹿児島考古』第6号 鹿児島県考古学会
- 1980 「まとめ」『石峰遺跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書 (12) 鹿児島県教育委員会
- 1985 「塞ノ神式土器と轟式土器」『鹿児島考古』第19号 鹿児島県考古学会
- 1989 「吉田式と前平式のものについて」『鹿児島考古』第23号 鹿児島県考古学会
- 金峰町教育委員会 1995 『河内原遺跡他』金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書 (5)
- 栗畑光博・上田耕・雨宮瑞生 1993 「貝殻文円筒形土器と押型文土器の関係」『南九州縄文通信』No.7 南九州縄文研究会
- 木崎康弘 1996 「第V章 総括」『蒲生・上の原遺跡』熊本県埋蔵文化財発掘調査報告書 (158) 熊本県教育委員会
- 黒川忠広 2000 「南九州貝殻文系土器研究の現状と課題」『大河』第7号 大河同人
- 2002 『南九州貝殻文系土器Ⅰ—鹿児島県』南九州縄文研究会
- 重留康宏 2002 「縄文時代早期末の条痕文土器(予察)」『宮崎考古』第18号 宮崎考古学会
- 志布志町教育委員会 1984 『倉園B遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書 (7)
- 新東見一 1978 「南九州の火山灰と土器型式」『どるめん』JICC版局
- 1980 「火山灰から見た南九州縄文早・前期土器の様相」『古文化論叢』
- 1988 「南九州の円筒土器と角筒土器」『鎌木先生古稀記念論集 考古学と関連科学』
- 1989 「早期九州貝殻文系土器様式」『縄文土器大観』小学館
- 寺師見國 1943 『鹿児島県下の縄文式土器分類及び出土遺跡地名表』鹿児島県陸軍聖蹟調査会
- 西之表市教育委員会 1978 『下剝峯遺跡』西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書 (1)
- 根占町教育委員会 2000 『大中原遺跡』根占町埋蔵文化財発掘調査報告書 (10)
- 前迫亮一 1993a 「石坂式土器にみる型式変化の方向性について」『大河』第4号 大河同人
- 1993b 「倉園B遺跡の再検討Ⅰ」『南九州縄文通信』No.7 南九州縄文研究会
- 牧園町教育委員会 1989 『界子仏遺跡・高天原遺跡』牧園町埋蔵文化財発掘調査報告書 (1)
- 松本雅明・富樫卯三郎 1961 「轟式土器の編年—熊本県轟貝塚調査報告」『考古学雑誌』47-3 日本考古学会
- 弥栄久志 1977 「鹿児島県の円筒土器」『考古学論叢』第4号 別府大学考古学研究会
- 水ノ江和同 1998 「九州における押型文土器の地域性」『九州の押型文土器—論攷編—』南九州縄文研究会
- 吉田町教育委員会 2002 『宮ノ上遺跡』吉田町埋蔵文化財発掘調査報告書 (3)